

全  
広  
連

二〇二〇年三月十日発行/奇数月回五日発行/通巻〇八五号/昭和三十九年二月十二日第三種郵便物認可  
発行/公益社団法人全日本広告連盟 〒一〇四・〇〇六一 東京都中央区銀座七丁目四番十七号電通銀座ビル七F  
電話〇三・三五六九・三五六六 [www.ad-zenkoren.org](http://www.ad-zenkoren.org)  
定価四五〇円(購読料は金費に含む)

広告の元気は、ニッポンの元気。

# 全広連

Special Report

新春対談「地域密着は、デジタルの力で  
ONE to ONE マーケティングへ」



熊本県 熊本市/熊本城の特別公開が始まり、多くの来場者でにぎわう天守閣前広場



公益社団法人  
全日本広告連盟  
JAPAN ADVERTISING FEDERATION

[www.ad-zenkoren.org](http://www.ad-zenkoren.org)

## 令和2年「年頭あいさつ」



公益社団法人 全日本広告連盟  
理事長

大平 明

明けましておめでとうございます。

昨年は、台風や未曾有の自然災害が広範囲にわたり度々発生し、甚大な被害をもたらされました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。インバウンド需要の高まりも期待され、日本が世界の注目を集める今年こそ、日本経済および広告界全体が活気づくことを切に願っております。

広告界はデジタル化の急速な進展により構造的な変化を求められています。メディアの多様化、コンテンツの拡大、マーケティング手法の変化にも著しいものがあります。こうした変化はともすれば危機と映りがちですが、我々はこの期をチャンスととらえ、チャレンジする勇気をもってこの変化を乗り越えてまいりたいと思います。

本年も活動スローガン「広告の元気は、ニッポンの元気。」のもと、会員の皆様と共に広告コミュニケーションの力で地域から日本を元気にしていけるよう事業活動を推進してまいります。

主な事業としては、5月21日～22日の2日間、第68回全日本広告連盟ふくしま大会（主催・第68回全日本広告連盟ふくしま大会組織委員会、公益社団法人全日本広告連盟）が、大会テーマ

『つくる！広告で、未来100年。～2020ふくしま発～』のもと郡山市で開催されます。福島県内での全広連大会開催は初となります。東日本大震災から10年という節目の年に福島の地で大会が開催されることは大変意義深いものと存じます。地域課題と向き合いながら、これからの広告コミュニケーションの役割について、皆様と前向きな意見交換ができれば幸甚です。

また、恒例の全広連夏期広告大学、全広連秋のシンポジウムは、各地広告協会の課題に沿うようにテーマや構成を個別に設定し、全国各地で開催いたします。

国際関係では、アジア広告協会連盟（AFAA）の一員としての活動や、3月18日～21日にタイ・パタヤで開催される第23回アジア太平洋広告祭（ADFEST2020）への協力、同広告祭内で開催されるヤング・ロータス・ワークショップ日本代表チームの選出および派遣などを行ってまいります。

全広連は今年も加盟各地37広告協会と連携しながら、皆様のご支援ご協力のもと事業に邁進してまいります。本年が、広告界ならびに会員各社様にとって新たな飛躍の年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

広告の元気は、ニッポンの元気。

2020

# 全広連

Vol.1085

# 1

## CONTENTS

- 2 Special Report 新春対談  
「地域密着は、デジタルの力で  
ONE to ONE マーケティングへ」
- 6 謹賀新年 …… 【広告界誌上年賀会】
- 12 …… 第12回全広連シンポジウム
- 14 …… 各地広告協会の動き  
(長野県・東京)
- 15 …… CLIP BOARD

## Cover photo & Off Shot



熊本広告協会 協力 写真提供:熊本日日新聞社  
撮影:熊本日日新聞社 上杉勇太記者(令和元年10月5日撮影)

**熊本県熊本市**  
**熊本城の特別公開が始まり、多くの来場者でにぎわう天守閣前広場**  
熊本地震で被災し、復旧工事が続く熊本城の特別公開が令和元年10月5日から始まり、外観がほぼ復旧した大天守などが間近で見られるようになった。公開区域は二の丸広場から工事用スロープを渡って、天守閣前広場まで歩く片道約450メートルのコース。真新しい大天守のほか、積み直しが終わった天守閣の石垣や工事が進む小天守、被災したままの宇土櫓や南大手門などが見られる。今後、小天守の外観と内装工事などを進め、2021年には一般客が天守閣内に入ることができるようになる見込み。

## 新春対談 「地域密着は、デジタルの力で ONE to ONE マーケティングへ」

十勝毎日新聞社 代表取締役社長 林 浩史氏  
博報堂 クリエイティブディレクター 鷹嘴 愛郎氏



林 浩史  
十勝毎日新聞社 代表取締役社長

1967年北海道帯広市生まれ。帯広柏葉高校卒業。明治大学文学部史学地理学科を1990年に卒業後、ポールドウィン・ウォレス大学大学院(米オハイオ州クリーブランド)国際経営学科修了。IMBA(国際経営学修士)取得。この間1992年に十勝毎日新聞社に入社、同社取締役北米支局長を務め、1994年からローレンス・ジャーナル・ワールド社(米カンザス州の新聞社)で研修。帰国し、1995年から上毛新聞社(群馬県前橋市)でも研修を積んだ。1996年に十勝毎日新聞社取締役副社長に就任、2009年12月から現職。2019年6月から北海道経済連合会常任理事を務める。



鷹嘴 愛郎  
博報堂  
クリエイティブセンター  
クリエイティブディレクター  
東北博報堂  
エグゼクティブクリエイティブディレクター  
Local.Biz代表、hakuodo-VRAR、  
スタラボのクリエイティブディレクターとしても活動中 (敬称略)

1990年、盛岡博報堂にコピーライターとして入社。2011年、東日本大震災を支援する「浜のミサンガ」を企画。仙台クリエイターオブザイヤー最高賞受賞。2013年、広告新商品を自主開発する「スタラボ」を須田和博氏とともに立ち上げる。2014年、第1弾開発商品「rice-code」がアドフェストグランプリ、カンヌゴールドなど、世界中の広告最高賞を受賞。その他施策を合わせ、80以上の海外賞を受賞中。国宝「風神雷神図」がホログラムで動き出すMRミュージアムin京都で、2019年経済産業大臣賞(日本イベント大賞・最優秀賞)を受賞。現在、東北博報堂に出向し、地域の未来課題をデジタル・インタラクティブの視点で解決する業務を継続中。

**編集部** 地域活性化を目指した模索が各地で続く中、地域のメディアや広告にできることは何かを全広連では考え続けています。本対談では、新聞メディアのみならず、多様な事業展開をされている十勝毎日新聞社(以下、勝毎)の林浩史社長にお越しいただきました。そして、2019年秋から東北博報堂にも籍を置き、一段と地域課題解決の取組みを加速している鷹嘴愛郎氏をお招きしました。この対談で未来へのヒントを見つける場にはできればと思います。

**鷹嘴** 全広連から企画の相談があり、地域メディアとして勝毎の一貫したビジョンと、常識に囚われない事業展開についてぜひお話をお伺いしたいと考えました。御社のオンリーワンでユニークな事業群は、どうやって始めたのでしょうか？

**林** 1919年に初代社長の林豊洲が創刊し、おかげ様で2019年に100周年を迎えることができました。特徴は「メディア」と「観光」を事業の両輪としている点だと思います。90年前の1929年には、今では全国有数のイベントに成長した「勝毎花火大会」を初開催し、1931年にモール温泉を掘削、1934年に大雪山国立公園の十勝側編入を導くなど創業当初から「郷土の発展とともに」の社是の下、事業を進めてきました。

そして戦後、4代目社長の林光繁が「顔の見える新聞」・「読者本位」をスローガンに掲げました。地元の選挙報道や地域住民が出場したスポーツの報道など、読者が興味のある内容を徹底的に報道し、地域に密着するという方針です。

**鷹嘴** 規模が異なるライバル紙に真正面から戦いを挑むのではなく、地域基準の、横綱が入れないサイズの土俵をつくり、そこで勝負してオンリーワンになるという逆転の発想ですね。

### 「クオリティ」は生命線

**林** それと同時に、我々が一貫してこだわってきたのが、東京から配信された情報は一定量に抑えつつ、自社取材による地元の記事コンテンツを質・量ともに充実させることです。人に会って記事を書くことは読者とのつながりや信頼に直結します。取材で出会ったスポーツをがんばっている地元の子が、「いつか勝毎に載りたい」というのをモチベーションにしてくれているのです。報道が主力ですので、自社記事のクオリティは生命線と思って取り組んできましたし、今後さらに高めたいと思っています。

**鷹嘴** 僕は今、『働くひとの西宇和みかん』という地域発の農産物D2Cに取り組んでいます。西宇和みかんは愛媛を代表するブランドですが、ライフスタイルの変化にも対応するべきだと考えました。



昨今、スーパーでは1kgで売られているみかんですが、オフィスへ直接届けるサービスで「箱買い」を取り戻そうという試みです。オフィスは大勢の仲間が集う現代の家族。ここに、安さをウリにするのではなく、最高のクオリティのみかんを「会議用」「デスクワーク用」「休憩用」といった働くシーンに合わせた選別にして届けました。栄養士さんと一緒に「みかんで働き方改革」を合言葉に、健康に役立つ、リフレッシュや集中に役に立つ地

域農産物の未来を考えました。

**林** 十勝の基幹産業も農業です。弊社は地域発展のための紙面企画「年間キャンペーン」を1976年から始め現在まで続けており、ちょうど2019年は、農業や道路などの社会インフラ整備の充実をテーマとしました。特に農業は、これまでの歴史の中でも苦しい時期は多くあり、土壌の改良や、競争力がある最高品質の作物を選別するなど、適切な利益を出し事業を継続させるための努力を重ねてきました。

生き残るためのポイントは、「徹底的に良いものをつくる」こと、「最先端技術(自動化・大規模化・AI化など)の導入」だと考えています。西宇和みかんの取組みも、最高のクオリティだという自信があるからこそ、D2Cの攻め方ができるのではないのでしょうか。

### 「地域密着×データ」に未来がある

**鷹嘴** 勝毎電子版を購読するとウォール・ストリート・ジャーナル(以下、WSJ)オンラインの購読が追加料金なしで可能ですね。こういった積極的なデジタル投資には、どんな背景があるのですか。

林 勝毎は、早朝から仕事に取り掛かる農家の方が読みやすいように、朝刊ではなく夕刊を発行してきました。そして今、未来の読者の中心を担う若い方たちはスマホやタブレットを使って畑や牛舎などの仕事場から情報にアクセスしたいのです。最も速報性が求められる天気・防災は電子版独自に最新情報を配信しています。WSJとの提携も「読者本位」を徹底した結果です。農業や一般企業にとっての先端事例は海外にもありますから、その情報を提供するという考えです。



そして、デジタルによってより詳細に得られるようになった顧客データの蓄積とマーケティングへの活用には、大きく2つの方向性があると考えています。

1つは、どのようなコンテンツが求められているのかを徹底的に深掘り、記事執筆のみならず事業活動にも生かしていくことです。具体的には、各市町村で取り組んできたイベントのデータベース化を進め、実績と課題を見える化して新イベントの創出や既存イベントの充実と、SNSによる発信にもつなげたいと考えています。

2つ目は、新たなサービスの創出です。世界を席巻するIT大手はデバイスを通じてデータ収集していますが、人々との直接の接点は持っていません。新聞は広く接点を持ち、地域密着の姿勢で顔の見える関係を築き、信頼を積み重ねてきたことに強みがあるはず。われわれだけが持つデータを読者の悩みやニーズをつかむことに活用したい。

その一例として、生活での困りごとを解決し、住民が望む時に生活の質を高めるお手伝いをするライフサポート事業を始めています。

鷹嘴 読者にサービスを提供し、データを蓄積すること

で地域インフラを充実させていく。一人一人の読者＝顧客に提供できるメリットを増やすという一貫した軸で、情報業から、生活全体のプラットフォームになるという目標ですね。地域に根ざしたOne to Oneマーケティングを本気で実践される姿勢に、本当に感動します！

メディアが培ってきた力をもっと地域に

林 マクロで見れば、人口減少の傾向は十勝も例外ではありませんし、インバウンドなどによる交流人口増の目標はどの地域でもお持ちだと思います。加えて、弊社では少し角度の異なるアプローチとして、十勝出身や十勝に関わってくださる著名人・有識者とのご縁を生かし、地元にお招きして郷土への求心力を高めることを重要視しています。

新聞発行で紙を消費するため、代わりに植樹することで炭素を相殺する「カーボンオフセット」に取り組もうと1987年、「十勝千年の森」を開設しました。そこでは、英国の著名なガーデンデザイナーのダン・ピアソン氏に依頼し、世界に冠たる庭園ができました。

さらに、弊社は35年前から、十勝の大樹町に宇宙基地を誘致しようと支援しています。今年5月に打ち上げられたロケットは民間企業単独では初めて宇宙空間に到達しました。

道内では民族共生空間「ウポポイ」のオープン、東京五輪のマラソン札幌開催も控えています。これからも機会を捉えて積極的に関わっていきたいと思います。

鷹嘴 培ってきた信頼をもとに、国内はもとより世界的にも著名な方と地元のご縁を積極的につくる。地域メディアならではのインフルエンサーマーケティング施策だと思います。こういった働きかけは、信頼という貴重な財産を蓄えてきた地域メディアだからこそ最も力を発揮できますね。

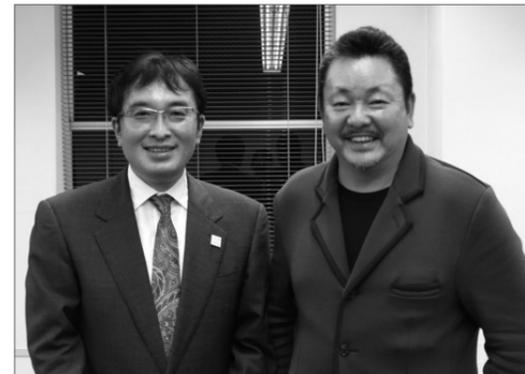
林 その通りだと思います。そして今や、ネットやSNSによる革命で地方からでも流行を生み出せるようになり、地域をPRできる可能性は無限に広がっています。若者の働き方、やりがいの価値観も変わり、地方へ目を向ける人も多くなっていると感じています。

これまで地元メディアとして地域の魅力を徹底的に取材してきたことを生かして、これからは外に発信していく。それは、「十勝ブランド」の競争力を高め、出身者や移住してくれた人にとっての誇りにもなるはず。です。

鷹嘴 内外に対する地域情報のハブになることで、ブランド競争力を高め、シビックプライドの醸成を目指す。そしてデータを活用して地域住民の生活のハブとしても貢献する。各地には、これまで地域のためにという志で、事業を行ってきたメディア様、企業様がたくさんあります。

徹底した地域愛は、デジタルの力を得て大きく進化できる。未来はいつも足元にある。地域をとことん掘り下げる可能性を感じ、多くのヒントをいただくことができました。今日は本当にありがとうございました！

林 ありがとうございました。



対談を終えて

鷹嘴愛郎

デジタルトランスフォームの中で、地域の広告、メディアは新たな大航海時代に突入しています。県域に守られたビジネスは、世界で最も少子高齢化が進み、そのしわ寄せを受けるエリアにとっての死活問題です。今までのやり方では売上が伸びない。いかにこの苦境を脱し、未来へ進む「海図」と「羅針盤」を手に入れるか？自社のビジネスにデジタルを取り込み、どんなマネタイズを生み出していくか？ほとんどの地域広告、メディアが、これだという正解が見えないまま（受け身なまま）時間だけが過ぎていっているようにも見えます。

そんな難しい時代の悩みを、お聞きするのはと想定していたのですが…林社長は、終始1ミリの不安も感じさせない人でした。自分たちが取り組んでいることに、一点の曇りもない。自信に満ち溢れておられました。地域メディアの本質価値に、揺るぎない自負を持っていました。

徹底的に地域の情報を掘り起こし、圧倒的な発信量で地域の人と繋がる（シンプルですが、ここにマンパワーを投入し本気でやっている地域メディアが、今どれだけあるでしょう）。この情報に接した人たちが、地域をもっと好きになる、愛を持つ、十勝を誇りに思う。たまたまデジタルの時代が来たら、今までやってきたことをデジタルでさらに拡張し、域外に広げていく。

思考は行動のリハーサルであり、トライした先にしか見えない景色があります。林社長は、十勝のためになることに本気でトライし、行動の中で自分たちの「海図」と「羅針盤」を手に入れていらっしゃる。だから強い。

未来は誰かに運んでもらうものではない。課題は可能性であり、ピンチはチャンスでもあります。答えは人の数だけある。自分たちの仕事に誇りを持ち、足元を本気で耕せば、地域の価値は必ず高まるということ、あらためて学ばせていただきました。

# 謹賀新年

【 広告界誌上年賀会 】

〈順不同〉

<p>理事長 <b>大平 明</b> 公益社団法人 全日本広告連盟 公益社団法人 東京広告協会</p>	<p>会長 <b>岩田 圭剛</b> 全北海道広告協会 札幌商工会議所会頭</p>	<p>理事長 <b>広瀬 兼三</b> 全北海道広告協会 北海道新聞社代表取締役社長</p>
<p>理事長 <b>塩越 隆雄</b> 青森広告協会 青森東奥日報社取締役会長</p>	<p>会長 <b>東根 千万億</b> 岩手広告協会 岩手日報社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>藤崎 三郎助</b> 仙台広告協会 藤崎代表取締役社長</p>
<p>会長 <b>佐川 博之</b> 秋田広告協会 秋田魁新報社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>寒河江 浩二</b> 山形広告協会 山形新聞社代表取締役社長</p>	<p>会長兼理事長 <b>高橋 雅行</b> 福島広告協会 福島民報社代表取締役社長</p>
<p>理事長 <b>大澤 克之助</b> 千葉広告協会 千葉日報社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>並木 裕之</b> 横浜広告協会 神奈川新聞社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>福田 勝之</b> 新潟広告協会 新潟商工会議所会頭</p>
<p>会長 <b>北村 正博</b> 一般社団法人 長野県広告協会 一般社団法人 長野県商工会議所連合会会長</p>	<p>理事長 <b>小松 佳浩</b> 一般社団法人 長野県広告協会 信濃毎日新聞社広告局長</p>	<p>会長 <b>野口 英一</b> 山梨広告協会 山梨日日新聞社会長兼社長 山梨放送社長</p>
<p>会長 <b>高木 繁雄</b> 富山広告協会 富山県商工会議所連合会会長</p>	<p>理事長 <b>忠田 憲美</b> 富山広告協会 北日本新聞社取締役会長</p>	<p>会長 <b>砂塚 隆広</b> 金沢広告協会 北國新聞社常務取締役</p>

<p>理事長 <b>吉田 真士</b> 福井広告協会 福井新聞社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>杉山 幹夫</b> 岐阜広告協会 岐阜新聞社最高顧問</p>	<p>会長 <b>大石 剛</b> 静岡県広告協会 静岡新聞社代表取締役社長 静岡放送取締役社長</p>
<p>会長 <b>山本 亜土</b> 一般社団法人 愛知広告協会 名古屋商工会議所会頭</p>	<p>理事長 <b>田中 正樹</b> 一般社団法人 愛知広告協会 敷島製パン代表取締役副社長</p>	<p>会長 <b>田中 克明</b> 京都広告協会 京都新聞COM代表取締役社長</p>
<p>理事長 <b>鈴鹿 且久</b> 京都広告協会 聖護院八ッ橋総本店代表取締役社長</p>	<p>理事長 <b>山田 邦雄</b> 公益社団法人 大阪広告協会 ロート製薬代表取締役会長</p>	<p>会長 <b>佐藤 一郎</b> 神戸広告協会 神戸地下街代表取締役社長</p>
<p>会長 <b>松尾 倫男</b> 山陰広告協会 山陰中央新報社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>松田 正己</b> 岡山広告協会 山陽新聞社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>岡谷 義則</b> 広島広告協会 中国新聞社取締役副会長</p>
<p>会長 <b>米田 豊彦</b> 徳島広告協会 一般社団法人 徳島新聞社理事社長</p>	<p>会長 <b>泉 雅文</b> 香川広告協会 高松商工会議所会頭</p>	<p>会長 <b>佐伯 要</b> 愛媛広告協会</p>
<p>会長 <b>青木 章泰</b> 高知広告協会 高知商工会議所会頭</p>	<p>会長 <b>川崎 隆生</b> 福岡広告協会 西日本新聞社相談役</p>	<p>会長 <b>村岡 安廣</b> 佐賀広告協会 村岡総本舗代表取締役社長</p>
<p>会長 <b>徳永 英彦</b> 長崎広告協会 長崎新聞社代表取締役社長</p>	<p>会長 <b>副島 隆</b> 熊本広告協会 お菓子の香梅代表取締役会長</p>	<p>会長 <b>池辺 克城</b> 大分広告協会 トキハ代表取締役社長</p>
<p>会長 <b>米良 充典</b> 宮崎広告協会 宮崎商工会議所会頭</p>	<p>会長 <b>本坊 修</b> 鹿児島広告協会 本坊酒造取締役会長</p>	<p>会長 <b>石嶺 伝一郎</b> 沖縄広告協会 那覇商工会議所会頭</p>

代表取締役社長 <b>西井 孝明</b> 味の素株式会社	代表取締役会長 <b>小田桐 健藏</b> 株式会社 角 弘	代表取締役社長 <b>川村 宗生</b> 株式会社 川 徳
代表取締役社長 <b>布施 孝之</b> キリンビール株式会社	代表取締役社長 <b>本坊 愛一郎</b> 薩摩酒造株式会社	代表取締役社長 <b>廣岡 賢治</b> 株式会社 三田屋本店
三和酒類株式会社 〒879-0495 大分県宇佐市山本2231-1	代表取締役社長 <b>舟橋 正剛</b> シヤチハタ株式会社	代表取締役社長 <b>鈴鹿 且久</b> 株式会社 聖護院八ッ橋総本店
代表取締役社長 兼 COO 兼 CMO <b>高橋 修司</b> セイコーウォッチ株式会社	代表取締役社長 <b>吉田 勝彦</b> 第一三共ヘルスケア株式会社	代表取締役社長 <b>上原 茂</b> 大正製薬株式会社
代表取締役社長 <b>芳井 敬一</b> 大和ハウス工業株式会社	代表取締役 社長執行役員 <b>山村 輝治</b> 株式会社 ダ ス キ ン	代表取締役社長 <b>玉木 伸弥</b> タマホーム株式会社
代表取締役社長 <b>大井 太郎</b> チチヤス株式会社	代表取締役社長 <b>渡辺 訓章</b> 株式会社 東 京 會 館	代表取締役社長 <b>小栗 一朗</b> 名古屋トヨベット株式会社
代表取締役社長 <b>木村 哲夫</b> 株式会社 日専連ホールディングス	執行役員 神戸阪急店長 <b>松下 秀司</b> 株式会社 阪急阪神百貨店	代表取締役会長兼CEO <b>尾崎 英雄</b> 株式会社 フ ジ
代表取締役社長 <b>小手川 強二</b> フンドーキン醤油株式会社	代表取締役 社長執行役員 <b>西村 元延</b> 株式会社 マ ン タ ム	代表取締役社長 <b>谷尾 一也</b> 明治屋産業株式会社

代表執行役社長 <b>田中 英成</b> 株式会社 メ ニ コ ン	吉本興業ホールディングス株式会社 本店・大阪本部 〒542-0075 大阪市中央区難波千日前11-6 東京本部 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-18-21	取締役 メディアビジネス担当 <b>高田 覚</b> 朝 日 新 聞 社
上席執行役員 <b>鈴木 裕一</b> 産 經 新 聞 社	専務取締役 メディアビジネス統括 <b>平田 喜裕</b> 日 本 経 済 新 聞 社	取締役営業担当 営業総本部長 <b>広田 勝己</b> 毎 日 新 聞 社
取締役広告局長 <b>安部 順一</b> 読 売 新 聞 東 京 本 社	常務取締役広告担当 <b>井戸 義郎</b> 中 日 新 聞 社	代表取締役社長 <b>柴田 建哉</b> 西 日 本 新 聞 社
代表取締役社長 <b>高橋 雅行</b> 福 島 民 報 社	代表取締役社長 <b>五阿弥 宏安</b> 福 島 民 友 新 聞 社	代表取締役社長 <b>小田 敏三</b> 新 潟 日 報 社
代表取締役社長 <b>矢島 薫</b> 岐 阜 新 聞 社	代表取締役社長 <b>松田 正己</b> 山 陽 新 聞 社	代表取締役社長 <b>土居 英雄</b> 愛 媛 新 聞 社
代表取締役社長 <b>武富 和彦</b> 沖 縄 タ イ ム ス 社	代表取締役社長 <b>玻名城 泰山</b> 琉 球 新 報 社	代表取締役会長兼社長 <b>川田 員之</b> 日 刊 ス ポ ー ツ 新 聞 社
代表理事 <b>原田 光治</b> 聖 教 新 聞 社	代表取締役会長 <b>谷口 俊二</b> 株式会社 日 本 農 業 新 聞	代表取締役社長 <b>野間 省伸</b> 株式会社 講 談 社
代表取締役社長 <b>相賀 昌宏</b> 株式会社 小 学 館	代表取締役社長 <b>中田 哲史</b> 株式会社 中 央 公 論 事 業 出 版	代表取締役社長 <b>立田 聡</b> 株式会社 秋 田 放 送

代表取締役社長 <b>新田 良一</b> 株式会社 テレ ビ ュー 福 島	代表取締役社長 <b>小 孫 茂</b> 株式会社 テ レ ビ 東 京	代表取締役社長 <b>伊 達 寛</b> 東京メトロポリタンテレビジョン株式会社
代表取締役社長 <b>中山 良夫</b> 株式会社 B S 日 本	代表取締役社長 <b>角南 源五</b> 株式会社 B S 朝 日	代表取締役社長 <b>相子 宏之</b> 株式会社 B S - T B S
代表取締役社長 <b>田村 明彦</b> 株式会社 B S テレ ビ 東 京	代表取締役社長 <b>亀山 千広</b> 株式会社 ビーエスフジ	代表取締役社長 <b>池内 昭彦</b> 福井放送株式会社
代表取締役社長 <b>平城 隆司</b> 株式会社 静 岡 朝 日 テレ ビ	代表取締役社長 <b>升家 誠司</b> 株式会社 C B C ラ ジ オ	代表取締役社長 <b>三村 景一</b> 株式会社 毎 日 放 送
代表取締役社長 <b>山本 晋也</b> 朝日放送テレビ株式会社	代表取締役社長 <b>石井 博之</b> 株式会社 エフエム大阪	代表取締役社長 <b>真鍋 和彦</b> 日本海テレビジョン放送株式会社
株式会社ちゅピCOMふれあい 〒730-0854 広島県広島市中区土橋町7-1	代表取締役社長 <b>鈴木 克明</b> 株式会社 テレ ビ 西 日 本	代表取締役社長 <b>壹岐 正</b> 長崎文化放送株式会社
代表取締役 <b>加藤 和豊</b> 株式会社 I & S B B D O	代表取締役社長 グループCEO <b>植野 伸一</b> 株式会社 ADKホールディングス	代表取締役社長 <b>上田 周</b> 株式会社 朝 日 広 告 社
代表取締役社長 <b>野村 勝則</b> 株式会社 インターワールド	代表取締役社長 <b>大塚 尚司</b> 株式会社 オ リ コ ム	代表取締役会長 <b>石山 良雄</b> 株式会社 京 橋 エイジェンシー

代表取締役社長 <b>山本 章義</b> 株式会社 JR西日本コミュニケーションズ	代表取締役社長 <b>原 口 宰</b> 株式会社 ジェイアール東日本企画	代表取締役社長 <b>樋口 荘一郎</b> 株 式 会 社 新 通
代表取締役会長兼社長 <b>谷 喜久郎</b> 株式会社 新 東 通 信	代表取締役社長 <b>落合 寛司</b> 株 式 会 社 大 広	代表取締役社長兼CEO <b>今井 明彦</b> 株式会社 TBWA\HAKUHODO
代表取締役社長 <b>棚田 京一</b> 株式会社 デ ル フ ィ ス	代表取締役社長執行役員 <b>五十嵐 博</b> 株式会社 電 通	代表取締役社長 <b>南 晋一郎</b> 株式会社 電 通 ア ド ギ ア
代表取締役社長 <b>寺尾 芳紀</b> 株式会社 電 通 東 日 本	代表取締役社長 <b>相原 晃</b> 株式会社 東映エージェンシー	代表取締役 社長執行役員 <b>澁谷 尚幸</b> 株式会社 東 急 エー ジェンシー
代表取締役社長 <b>鐘ヶ江 弘章</b> 株式会社 と う こ う ・ あ い	代表取締役 <b>内藤 好之</b> 株式会社 内 藤 一 水 社	代表取締役 <b>長田 一郎</b> 長 田 広 告 株 式 会 社
代表取締役社長 <b>荻原 俊夫</b> 株 式 会 社 西 広	代表取締役会長 <b>丹羽 信一</b> 株式会社 日 本 経 済 広 告 社	代表取締役社長 <b>富田 賢</b> 株式会社 日 本 経 済 社
代表取締役会長CEO <b>戸田 裕一</b> 株式会社 博報堂DYホールディングス	代表取締役社長 <b>水島 正幸</b> 株式会社 博 報 堂	代表取締役社長 <b>矢嶋 弘毅</b> 株式会社 博報堂DYメディアパートナーズ
代表取締役社長 <b>岸 直彦</b> 株式会社 博 報 堂 プ ロ ダ ク ツ	取締役 <b>松岡 和治</b> 株式会社 富 士 広 告 社	代表取締役社長 <b>稲川 一</b> 株 式 会 社 文 宣

代表取締役社長 <b>肥後 謙一</b> 株式会社 メトロ アド エージェンシー	代表取締役社長 <b>藤沼 大輔</b> 株式会社 読 売 廣 告 社	代表取締役社長 <b>古市 優子</b> アド テ ッ ク 東 京 Comexposium Japan 株 式 会 社
代表取締役 <b>小佐野 保</b> 株式会社 ギークピクチャーズ	代表取締役 <b>成田 清</b> 株式会社 スペースプロジェクト	代表取締役 <b>笹本 裕</b> Twitter Japan 株 式 会 社
代表取締役社長執行役員 <b>松原 靖広</b> 株式会社 電 通 テ ッ ク	代表取締役社長 <b>磨 秀 晴</b> 凸 版 印 刷 株 式 会 社	

**第12回**  
(令和元年度)

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団 協賛  
**全広連シンポジウム**

第12回(令和元年度)全広連シンポジウム(主催:各地広告協会、(公社)全日本広告連盟、協賛:(公財)吉田秀雄記念事業財団)を全国3地区で開催した。

講演テーマ及び講師(敬称略)	
9月18日13:00~16:00 山日YBS本社 山日YBSホール	
■甲府会場	
●第1講「日本の各地を、世界の旅行地に」	wondertrunk & co. 代表取締役共同CEO デスティネーションプロデューサー 岡本岳大
●第2講「サイクリストの視点で地域の未来を描く」	サイクリスト/レーサー/全日本実業団自転車連盟副理事長 今中大介
11月26日17:00~19:30 河北新報社本館ホール	
■仙台会場 「クリエイティビティが作る次の未来」	
● 解題	ドリル エグゼクティブ・アドバイザー 鏡明
● プレゼン1「個人の物語が町を変える」	電通関西支社 ソリューションデザイン局 コピーライター 日下慶太
● プレゼン2「日本の未来を、地域から拡大する」	博報堂 クリエイティブセンター クリエイティブディレクター/ 東北博報堂 エグゼクティブクリエイティブディレクター/Local.Biz代表 鷹野愛郎
12月14日13:00~16:30 東奥日報新町ビル New'sホール	
■青森会場 「地域発メディアビジネス/広告ビジネスの新たな挑戦」	
●第1講「地方からの発信~水曜どうでしょうの事例」	北海道テレビ放送 エグゼクティブディレクター 藤村忠寿
●第2講「食への付き情報誌「東北食べる通信」の取り組みについて」	東北食べる通信 編集長 成影沙紀
●第3講「地域に眠る価値ある事実を光を当てる」	FACT エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/ シティ・アクティベーター 三寺雅人

**甲府会場**

第1講はwondertrunk & co. 代表取締役共同CEOデスティネーションプロデューサーの岡本岳大氏が登壇。外国人観光客を対象としたインバウンド観光のプロモーションについて、海外のクリエイターの意見を取り入れて、観光客の目線にたったPRをすることが大切と話した。



岡本岳大氏



今中大介氏

第2講はサイクリスト/レーサー/全日本実業団自転車連盟副理事長の今中大介氏が登壇。2020東京五輪の自転車ロードレースコースを紹介。山梨県内で約10の関連イベントが開催されていることに触れ、ロードレースをきっかけにさらに自転車に親んでもらえるようなPRが必要だと話した。



トークセッション風景

**仙台会場**

まず、解題に(株)ドリル エグゼクティブ・アドバイザーの鏡明氏が登壇した。



鏡明氏

第1講には電通関西支社 ソリューションデザイン局コピーライター日下慶太氏が登壇。取り組んできた事例とその考え方を紹介し、仕事に取り組む際に照れと遠慮を捨て、今日が人生最後の日としたらそれはどうやるべき仕事か、という視点で仕事に向き合う姿勢について語った。



日下慶太氏

第2講には博報堂クリエイティブセンタークリエイティブディレクター鷹野愛郎氏が登壇。デジタル時代に地域に利益をもたらすことができるビジネスモデルを模索する中で、D2Cのマネタイズモデルに取り組



鷹野愛郎氏

んでいる農産品の最新の事例などを紹介した。



トークセッション風景

**青森会場**

第1講は、北海道テレビ放送 エグゼクティブディレクターの藤村忠寿氏が登壇。全国的な人気となったTV番組「水曜どうでしょう」はコンテンツ販売でも大きな利益を上げており、その背景と今後の展望を語った。また青森の可能性について、自分たち自身がよいと思うところをどんどん発信していくべき、と提言した。



藤村忠寿氏



成影沙紀氏

第2講では東北食べる通信編集長の成影沙紀氏が登壇。「東北食べる通信」は、顔の見える・再生産可能な価格での流通の仕組みとして現在全国36通信・海外4通信にまで成長しており、東日本大震災を経て加わって背景とその魅力、今後の目標を語った。



三寺雅人氏

第3講ではFACT (ADKクリエイティブワン) CEOの三寺雅人氏が登壇。これまで各地で取り組んできた地域での事例を紹介し、そのエッセンスとなる考え方を解説した。



トークセッション風景

# 各地広告協会の動き

長野県  
長野県広告協会  
「第26回高原の風セミナー」開催  
会員と一般市民約100人が聴講

一般社団法人長野県広告協会は10月28日、「第26回高原の風セミナー」を松本市内のホテルで開いた。

講師は、株式会社 電通 地域イノベーションセンター地方創生室 シニア・統合マーケティングプロデューサーの沼野恵さんと、株式会社 Humanergy (ヒューマナジー) 代表取締役の福富信也さん。

「東京一極集中。今、人はなぜ東京に。そしてこれからは…」と題して講演した沼野さんは、「Uターンを促進させるためには、Uターン先での仕事や生活の情報がふれやすくなる流れを整備することが重要」と解説した。「脱トップダウン思考」—スポーツから読み解くチームワークの本質—と題して講演した福富さんは、「チームワークを高める手段としては、リーダーシップだけに依存するのではなく、むしろフォロワーシップの構成要素である『貢献力』と『批判力』をチーム内に浸透させることが肝要」と強調した。参加者は、両講師の話を中心に聴いた。



チームワークの本質について語る福富信也氏

東京  
東京広告協会  
【大学生意識調査2019】  
大学生の「消費」調査結果発表

東京広告協会が指導している大学生意識調査プロジェクト (FUTURE2019) のプレス発表会が、12月4日に電通銀座ビルで行われた。「大学生1,000人にきいた『大学生の消費』に関する意識調査」について、調査した学生自ら発表を行った。これは首都圏5大学 (青山学院、駒澤、上智、専修、千葉商科) のマーケティング関係のゼミ生で構成され、首都圏の大学に在籍する1~4年生1,000人を対象に調査を実施したもの。

キャッシュレス、シェアサービスの浸透、デジタルコンテンツの爆発的増加により、消費の「効率化」「簡便化」が急速に進んでおり、大学生にとってこれらは生活必需品ともいえるが、日常の消費行動が「楽に」「簡単に」なものへ移行する中、価値ある消費として選択するものは別にあるかもしれない。本調査は、デジタル時代を生きる大学生ならではの、消費行動の意識と実態を探ることを目的とした。

調査結果では、大学生の消費傾向は、主にデジタルは効率化のために使い、そこで生まれた時間やお金をよりリアルなモノに使っていきたいと思っていることが判明した。また、時間やお金の消費は、自身の生活を豊かにすることや自己啓発、スキルアップなどジブン磨きのために必要なモノだと認識しているようだ。

調査結果詳細は東京広告協会HP、事務局まで



## TOPICS

### 第112回全国事務局長会議開く

令和元年10月25日、郡山市のホテルハマツで第112回全広連全国事務局長会議を開催した。参加した各地広告協会の事務局長は、まず令和2年5月開催の第68回全広連ふくしま大会の主会場であるビックパレットふくしまを見学した後、ホテルハマツに移動し全広連ブロック会議を実施。各ブロックごとに分かれ情報や意見の交換が行われた。引き続き全国事務局長会議を開催し、福島広告協会の佐久間広人事務局長から全広連ふくしま大会概要の準備状況と概要の説明があったほか、全広連事業活動の報告、連絡、要請及び今後についての協議等を行った。

#### 【第112回全国事務局長会議 議題】

第67回全日本広告連盟富山大会総括報告 富山広告協会  
第68回全日本広告連盟ふくしま大会の概要説明 福島広告協会  
8ブロック会議開催報告  
令和元年度理事会結果報告  
事務所賃貸借契約の締結  
令和2・3年度全広連新会費の件  
令和元年度第1回臨時総会の件  
第68回通常総会日程の件  
全広連「賛助会員」の件  
第71回 (令和5年) 以降の全広連大会開催地協会の件  
第30回 (令和元年度) 全広連夏期広告大学の報告と  
第31回 (令和2年度) 開催協会立候補要請の件

第12回 (令和元年度) 全広連秋のシンポジウム開催概要の報告と  
第13回 (令和2年度) 開催協会立候補要請の件  
全広連「助成金」の件  
支援助成事業の実施報告の件  
令和2年度税制・広告課税問題への対応の件  
第8回「全広連日本宣伝賞」各賞候補者推薦の件  
高画質ビデオ会議システム導入の件  
「全広連鈴木三郎助地域キャンペーン/クリエイティブ大賞」  
今後についての件  
国際関係活動の件  
全広連ウェブサイト掲載用・各地広告協会情報更新への協力をお願い  
2026年アジア大会ロゴマークコンペ協力要請の件 等

## INFORMATION

### 第23回アジア太平洋広告祭 (ADFEST 2020)

#### 応募要項の和文翻訳を全広連ホームページに掲載中

第23回アジア太平洋広告祭 (ADFEST 2020) が、2020年3月18日 (水) ~ 21日 (土)、タイ・パタヤで開催されます。各カテゴリーの作品応募要項 (英文) はADFEST公式HPに掲載されています。全広連では、応募要項の和文翻訳を作成し、全広連HPに掲載しています。

#### Young Lotus Workshop 2020 PreADFESTを2月5日に開催

若手クリエイターの作品コンペ「Young Lotus Workshop 2020」国内選考のファイナリストの発表を、2020年2月5日 (水) 夜のPreADFEST内で行います。その後、最終選考を経て日本代表チームを選出します。発表は全広連HPにて行う予定です。

#### ADFEST2020全広連研修ツアー 参加者募集

全広連では、ADFEST2020の研修ツアーを、(一社)日本アド・コンテンツ制作協会の協賛のもとで3月17日 (火) ~ 22日 (日) の行程で主催します。申込締切は2月6日 (木) です。

<ツアー参加特典>

- ◎ADFEST2020への参加登録や登録料の送金など、手続きの代行手配
- ◎タイでの発着空港⇄宿泊ホテル間の、ツアー専用バスでの安全な送迎
- ◎宿泊ホテルは、会場に隣接する「パタヤ・ロイヤルクリフビーチホテル」を1名様1室でご利用
- ◎宿泊ホテルに専用ツアーデスクを設置し、滞在中の様々な質問に対応
- ◎主要セミナーに日本語同時通訳の準備

研修ツアーの詳細は追って全広連ホームページ等でご案内します。

## 全広連の活動(令和2年1月～3月)

- 活動予定 1月 8日 広告界合同年賀会(東京、帝国ホテル)
- 2月 3日 ADFEST2020「Young Lotus Workshop 2020」日本代表第1次選考(東京、電通銀座ビル)
- 2月 5日 PreADFEST2020(東京、フェニックスホール)
- 2月12日 ADFEST2020「Young Lotus Workshop 2020」日本代表最終選考(東京、電通銀座ビル)
- 2月27日 令和元年度第4回8ブロック会議(東京、電通銀座ビル)
- 3月 5日 令和元年度第4回理事会(東京、電通銀座ビル)
- 3月17日～22日 ADFEST2020 全広連研修ツアー(タイ・パタヤ)
- 3月27日 第14回「全広連鈴木三郎助地域キャンペーン大賞」選考委員会(東京、電通銀座ビル)

## 加盟各地広告協会 人事 [敬称略]

### 理事長就任

【岐阜広告協会】 森健二(岐阜商工会議所 専務理事) 11月1日付

## 加盟各地広告協会 新入会員社紹介 [敬称略]

### 【横浜広告協会】(1社 1名)

- 株横浜マリンエフエム
- 代表取締役 笹原延介

### 【新潟広告協会】(3社 3名)

- 株シアンズ
- 代表取締役社長 野口一則
- 株デジタル・アド・サービス
- 代表取締役社長 村田進
- 学校法人新潟工科大学
- 常務理事・参与 大倉正寿

### 【静岡県広告協会】(1社 1名)

- 株ゴッドフィルムズ
- 代表取締役 石川英希

### 【香川広告協会】(1社 1名)

- 株フェローズ高松支社
- 取締役 小西孝宏

### 【福岡広告協会】(1社 1名)

- 株福岡リビング
- 代表取締役社長 内田博之

### 【愛媛広告協会】(1社 3名)

- WASAVITO株
- 代表取締役 平島哲也
- 取締役 磯崎将一
- 取締役営業部長 中矢浩之

【お願い】人事異動などによる会員の交代や役職の変更等が生じ、機関誌「全広連」の発送先が変更になった場合は所属広告協会事務局へご連絡をお願いします。

## 全広連「賛助会員」のご案内

全広連では、加盟37地域広告協会の「正会員(37)」に加えて、本連盟の事業に賛同して特にその事業に協力する個人、法人又は団体による「賛助会員」を募集しております(年会費として、一口12万円)。なお、この他にも、全広連の団体運営や事業活動へのご支援のためのご寄付や、個別の公益目的事業へのご協賛などにつきまして随時受付けております。あたたかいご支援のほどお願い申し上げます。

【お問合せ】 公益社団法人全日本広告連盟 TEL: 03-3569-3566

## 編集部より

「令和」最初の新年巻頭対談、いかがでしたでしょうか。

機関誌「全広連」でお読みにになりたいテーマや、ご意見・ご感想などございましたら、jaf@ad-zenkoren.org(担当:石川)までご連絡ください。

2020年もご愛読の程、お願い申し上げます。

### 公益社団法人 全日本広告連盟 加盟37広告協会

全北海道広告協会 秋田広告協会 東京広告協会 山梨広告協会 岐阜広告協会 大阪広告協会 広島広告協会 高知広告協会 熊本広告協会 沖縄広告協会  
 青森広告協会 山形広告協会 横浜広告協会 富山広告協会 静岡県広告協会 神戸広告協会 徳島広告協会 福岡広告協会 大分広告協会  
 岩手広告協会 福島広告協会 新潟広告協会 金沢広告協会 愛知広告協会 山陰広告協会 香川広告協会 佐賀広告協会 宮崎広告協会  
 仙台広告協会 千葉広告協会 長野県広告協会 福井広告協会 京都広告協会 岡山広告協会 愛媛広告協会 長崎広告協会 鹿児島広告協会

全広連は、下記37広告協会の会員の皆様にお送りしています。

全広連の活動について詳しくはウェブサイトから ▶ [www.ad-zenkoren.org](http://www.ad-zenkoren.org)